

平成 29 年度一般選抜後期日程についての講評等

【後期試験の基本的な姿勢】

宮崎公立大学国際文化学科が行う「総合学力試験」として、以下の3点を念頭において作題した。

- 1 地域社会が直面する国際的・文化的かつ現代的な内容を取りあげる。
- 2 内容の正確な理解に加え、得られた情報を活用して的確に判断する能力を問う。
- 3 自らの体験・価値観や具体的情報・知識を活用しつつ、合理的な評価並びに妥当な判断を「小論文」として説得的に表現・展開する技能と態度を問う。

問 1

和訳の問題ですが、大学入試に必須の単語の意味がわからないために (current, Celsius) 日本語として意味のわからない訳が散見されました。語彙力の増強が必要かと思えます。

問 2

文脈から「地球温暖化に対する対策案」が ineffective になっている理由を見つける問題です。解答 (3つ) はすべて下線部②の ineffective と同じ段落に書いてありますが、段落の構造と、文章同士の繋がりが理解できていないため、適切な箇所を解答できていない方が多く見受けられました。英文を1つ1つ理解して、文章同士の繋がりを理解して、英文が段落で何を言おうとしているのかという読解の訓練をしていく必要があると考えます。

問 3

和訳の問題です。問題 1 と同様に大学入試に必須の単語の意味がわからないために (agricultural, resistant, secure, stable, supply) 日本語としておかしい訳が散見されました。語彙力の一層の増強が必要かと思えます。

問 4

It goes without saying that ~の構文が理解できていない受験生が少なからずいました。また、3つの動詞が and で結ばれていることを見抜けていない答案も目立ちました。

問 5

provide A with B が読み取れていませんでした。やはり、ここでも述部の動詞が3つ連続していることを見抜けていませんでした。

問6 小論文

【作題の意図】

本問は、一言で「地球温暖化対策」とされるものには実は異なる2つのレベルの対策があること、つまり「温室効果ガスによる悪影響への対策」と「温室効果ガスを削減するための対策」とに区別されることが、核心となっている。問題文1は前者の対策が、問題文2と問題3は後者の対策が、それぞれ記されている。問題文2と問題3は、同じ話題を扱うが違った見解を提示している。

以上の構造を踏まえて、すべての問題文の内容を正確に理解し、当該2つのレベルの対策のそれぞれにつき内容整理を行うこと、および、この整理に基づいて受験生自身が有効と考える対策（双方のレベルの対策について取り上げることが望ましい）を根拠付けながら説得的に主張することを試した問題である。根拠を考える上でのヒントは問題文の中にちりばめられており、それらを活用し、つなぎ合わせたり補足・追加をしたり、あるいは反論したりすることで、自身の根拠を構成できるようになっている。

【講評】

本問は、今や誰もが身近に聞き知っており、市民的な関心も一般に高い「地球温暖化」問題を取り上げているにも関わらず、基本的な問題構造の認識に欠落があるような答案が目立った。そのことが関係してか（あるいは回答時間が足りず焦ったためか）、問6の問題文そのものを十分に理解していない答案が非常に多かった。

根拠がなく個人的な印象を述べているに過ぎないものや、身近な経験を引き合いにした感想文は、まったく説得力がなく、大幅減点の対象になった。根拠が示されていても、述べている対策と整合性に欠ける答案も散見された。対策についてのメリットやデメリットなど論理的に述べられている答案が得点につながった。また、どこからどこまでが問題文に書かれてある内容で、どこからが自身の主張であるのかの線引きが明確でないものがみられた。

論述問題については、日頃から時事問題に関心を持ち、前提となる知識を得ることも重要であるが、一つのテーマについて論理的に考え記述する力を養うことが重要となる。

以下、いくつかの項目に分けて具体的に講評する。

(1) 基本事項—問題文の指示に従っていない

- ・「問題文1と問題文2および問題文3を参考に」とあるにもかかわらず、問題文のいずれも参考にしていない。
- ・「『地球温暖化対策』を『温室効果ガスによる悪影響への対策』と『温室効果ガスを削減するための対策』に分けて整理したうえで」となっているが、これらの整理を行っていない。
- ・問題文1の英文が十分に読めなかったのか、「温室効果ガスによる悪影響への対策」の整理がない。
- ・上記の整理を行わないまま自分の意見を展開する。「整理」するよう指示されているのに、「私が考えるに」というように「自分の意見」を述べている。
- ・「温室効果ガスによる悪影響への対策」と「温室効果ガス削減の対策」を、どちらが有効かとの視点で論じている（「どちらも並行して進めるべき」など）。
- ・「温室効果ガスによる悪影響への対策」が問われているのに、「温室効果ガスによる悪影響」がどのようなものかの説明になっている。
- ・「あなたが有効と考える対策を、根拠を示しながら述べなさい」という問題文であるが、対策について述べているが、根拠が示されていない。

(2) 内容上の問題点

- ・「温室効果ガスによる悪影響への対策」が、「森林伐採規制」「植林政策」あるいは「熱中症の症状・対策」になっている。これらは問題文に記述されていないことだが、その場合なぜ上記の対策に該当するのかについて説明すべきである。
- ・「温室効果ガスによる悪影響への対策」について、「オゾン層の破壊」→「皮膚ガンの発生率増加」→「ガン対策」の論を展開している。これは地球温暖化とは別の議論である。
- ・「いかに二酸化炭素を出さずに電力を確保するか」「いかに資源を節約するか」あるいは「原発（再稼働）の是非」などの議論に終始し、脇道にそれている。
- ・「温室効果ガス削減」について「フロンガスの削減」を主張し、「山に不法投棄された大型電化製品などのゴミを拾う活動を推進する」などと展開している。
- ・「有効と考える対策」について、「ポスターを作成して貼る」「もったいない精神で省エネ化をすすめる」など根拠のない論の展開になっている。
- ・「有効と考える対策」について、「再生可能エネルギーが大事」「人工知能の導入が必要」などと延々と説明する。根拠らしきものがあったとしても、問題文からずれている。

(3) 文章表現上の問題点

- ・段落が全くなかったり、非常に少なかったりと読みづらい答案が散見された。文と段落については、一つの内容で一つの段落を作るとともに、文と文、段落と段落の繋がりを意識して記述すべきである。
- ・文体が統一されず、一部にのみ「です、ます」調を用いている。

(4) その他の問題点

- ・漢字で書くべきところを平仮名で書いている。
- ・「改発」「財成」「増化」「燃量」などの誤字が目立つ。
- ・「福島原爆」「東北関東大震災」など基本知識が定着していない。
- ・以上の問題に対しては、平素より国語の学習を大事にするとともに、本や新聞を読むことを通して、正しい日本語や言葉の意味を学んでほしい。